

い さ わ じ ょ う あ と

## 胆沢城跡

- ◆指定年月日 大正 11 年 10 月 12 日  
平成 23 年 9 月 21 日（追加指定）  
平成 27 年 3 月 10 日（追加指定）
- ◆所在地 水沢佐倉河字渋田ほか
- ◆所有者 奥州市、個人ほか

胆沢城は、平安時代はじめの延暦 21 年(802)に坂上田村麻呂によって造られた古代城柵です。大同 3 年(808)に国府多賀城（宮城県多賀城市）から胆沢城に鎮守府が移され、10 世紀の後半ごろまでの 150 年間ほど、古代の東北経営の拠点として機能していました。

指定面積 554,472.14 m<sup>2</sup>



線は、築地塀の痕跡



たかのちょうえいきゅうたく

## 高野長英旧宅

- ◆指定年月日 昭和8年4月13日
- ◆所在地 水沢字大畑小路
- ◆所有者 奥州市

幕末の蘭学者で医師であった高野長英が、江戸に旅立つまで生活していた家です。旧宅は、明治9年(1876)に改装されているので、屋根その他は当時の様子がはっきりしませんが、長英の居室であった階下の8畳と6畳の2室は、今なお当時のまま保存されています。長英の水沢時代を伝える場です。

宅地全部一筆 126.5 坪 (418.18 m<sup>2</sup>)



つのつかこふん

## 角塚古墳

- ◆指定年月日 昭和 60 年 3 月 22 日
- ◆所在地 胆沢南都田字塚田
- ◆所有者 奥州市、団体

5 世紀後半に造られた日本最北端の前方後円墳です。円筒埴輪、形象埴輪(馬・鳥形埴輪)、朝顔形埴輪が出土しています。発掘調査で、墳丘上に埴輪を立て並べ、葺石を施し、周濠を伴うことなどが判明しています。古墳文化の東北地方での受容のされかた、ヤマト王権勢力の波及の仕方等究明する上で極めて重要です。



主軸長 44.5～44.6m(前方部長 16.1～17.3m、後円部径 28.3m)、後円部最大比高 4.3m、前方部最大比高 1.5m (現状)  
指定面積 7,613.65 m<sup>2</sup>

やなぎの ご し ょ ひらいずみ い せ き ぐ ん し ろ と り た て い せ き  
柳之御所・平泉遺跡群（白鳥館遺跡）

- ◆指定年月日 平成 17 年 7 月 14 日
- ◆所在地 前沢字白鳥館
- ◆所有者 奥州市、個人

白鳥館遺跡は北上川が蛇行する場所に半島状に突き出した丘陵上に位置しています。発掘調査により 10 世紀は集落、11 世紀以降 15 世紀の中頃までは川湊、さらに 15 世紀には城館として利用されたことが明らかになっています。河川交通によって支えられた平泉の様相を具体的に知る上で、重要な遺跡です。



指定面積 50,634.45 m<sup>2</sup>

やなぎのごしょ ひらいずみいせきぐん ちょうじゃがはらはいじあと  
柳之御所・平泉遺跡群 (長者ヶ原廃寺跡)

- ◆指定年月日 平成 17 年 7 月 14 日
- ◆所在地 衣川田中西
- ◆所有者 奥州市、個人

長者ヶ原廃寺跡は、平泉前史をなす安倍氏時代の寺跡と推測されている重要な遺跡です。11、12 世紀において衣川は、在地勢力(安倍氏・清原氏)と朝廷勢力(京)との境界でした。中尊寺が建立される関山に北面する位置に建つ長者ヶ原廃寺は、時代状況を象徴的に表現する重要な意味を担っていると考えられます。



指定面積 38,438.08 m<sup>2</sup>

やなぎのごしよ ひらいずみいせきぐん せったいだていせき  
柳之御所・平泉遺跡群 (接待館遺跡)

- ◆指定年月日 平成 22 年 2 月 22 日
- ◆所在地 衣川六日市場ほか
- ◆所有者 奥州市、個人

接待館遺跡は、二重の堀と土塁に囲まれた 12 世紀後半の大規模遺跡です。遺跡からは多量の手づくねのかわらけが出土しており、宴会儀礼あるいは宗教的な儀式が行われていたと考えられます。



写真提供：（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

指定面積 39,545.28 m<sup>2</sup>

おおすずかみいせき

# 大清水上遺跡

- ◆指定年月日 平成 20 年 7 月 28 日
- ◆所在地 胆沢若柳字慶存
- ◆所有者 国、奥州市、団体

胆沢扇状地西奥部の中位段丘上に立地する、縄文時代前期後葉（5,000 年前）の大型住居からなる環状集落遺跡で、同時代における胆沢地方の拠点的な集落だったと考えられます。長径 10m を超す大型の竪穴住居跡や土坑群が、中心の広場（遺構が見つからない場所）を取り囲むようにして環状に配置されています。また、秋田県や宮城県との交流を物語る遺物も出土しています。

写真提供：2 枚とも（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

指定面積 45,683.74 m<sup>2</sup>



みょうごさわこがわらしゅつ ど ち  
明後沢古瓦出土地

- ◆指定年月日 昭和 38 年 12 月 24 日
- ◆所在地 前沢古城字明後沢・姥沢
- ◆所有者 個人

胆沢城と同じ版型でつくったとみられる平安時代の古瓦が多数出土し、瓦窯跡とも、古代寺院跡、古代城柵跡ともいわれますが、その性格は不明です。土師器、須恵器、重弁蓮華文鑑瓦、素弁蓮華文鑑瓦、鬼瓦などの遺物が出土しています。



指定面積 10,474 m<sup>2</sup>

る す け ぼ し ょ  
留守家墓所

- ◆指定年月日 昭和 49 年 4 月 1 日
- ◆所在地 水沢字日高小路・字東町
- ◆所有者 (宗) 日高神社・(宗) 大安寺

日高神社境内の瑞山神社(祖霊社)には、水沢伊達家初代宗利が祀られ、その南に 2 代宗直の墓所があります。大安寺には 3 代宗景と 5 代村景から最後の当主である 12 代邦寧までの墓所があり、江戸時代の大名級武士の墓所として当地方の歴史を考える上で重要な場所となっています。

岩手県有形文化財「瑞山神社」を除く日高神社内の留守家墓所  
および大安寺内の留守家墓所の一括指定  
4 代村任の墓所は、仙台市「東昌寺」



日高神社墓所



大安寺墓所

かみあねたいたてあと

# 上姉体館跡

- ◆指定年月日 昭和 49 年 4 月 1 日
- ◆所在地 水沢姉体町字寺ノ西
- ◆所有者 個人

安永期に、仙台藩が各村の様子を報告させた風土記御用書出にも記載された中世の館跡です。伝承によれば、柏山家臣千田豊後が天正年間まで居住したとされています。

東西約 80m、南北約 150m

はんにゅうごうぞくやしき

## 半入豪族屋敷

- ◆指定年月日 昭和 56 年 3 月 30 日
- ◆所在地 水沢佐倉河字半入
- ◆所有者 個人

濠、土塁、エグネ（屋敷林）、キズマ、門を備え、往時の豪族屋敷の特徴をよく残している屋敷です。日本の豪族屋敷が形態を失いつつある中で、半入の豪族屋敷はその当初からの形態を残しており、高い学術的価値を有しています。



とよたじょうあとひ

## 豊田城跡碑

- ◆指定年月日 昭和 56 年 5 月 19 日
- ◆所在地 江刺岩谷堂字下苗代沢
- ◆所有者 奥州市

豊田館は、藤原清衡が平泉に移る前の居館です。その擬定地の一画に安永 3 年 (1774) に建てられた石碑で、仙台藩儒 (藩の儒学者) 田辺希元による豊田館の伝承が記されています。

### 〔碑文〕 豊田城址碑

此地也東西五十七步南北三十九步在昔亘理權太經清  
所城也經清戰死平泉之役以其子權太郎清衡有勤王之勲  
乃封奥之六郡復居之當時北上川在城之辺浮梁之稱今存  
東北有高水寺址東南有鎮岡祠白旗池俱事詳封内風土記  
多歷年所人不知之立碑以傳焉

安永三年甲午四月十五日

藩儒 田辺希元 撰  
江戸 三井親和 書



せ や ご かまあと  
瀬谷子窯跡

- ◆指定年月日 昭和 56 年 5 月 19 日
- ◆所在地 江刺稲瀬字瀬谷子
- ◆所有者 個人

200 基を超える登窯が発見され、平安時代前期に、胆沢城へ瓦や食器などを供給した、須恵器の一大生産地だったことが判明しています。



ひとかべやまもと きゅうさかりかいどうしちりづか

## 人首山本の旧盛街道七里塚

- ◆指定年月日 昭和 56 年 5 月 19 日
- ◆所在地 江刺米里字山本
- ◆所有者 奥州市

盛街道は、水沢から江刺を經由して大船渡の盛宿に至る、内陸と沿岸を結ぶ街道でした。街道沿いに一里ごとに塚が置かれ、旅人に街道の途中行程を知らせていました。盛街道の七里塚のうち、挟み塚として両方の塚が現存する唯一のものです。江戸時代。



高さ 1.7m、1.5m、径約 5.4m

しんじょうなか う わ の きゅうおうしゅうかい どう い ち り づ か  
真城中上野の旧奥州街道一里塚

- ◆指定年月日 昭和 63 年 12 月 23 日
- ◆所在地 水沢真城字中上野
- ◆所有者 個人

江戸時代の奥州街道には一里(約 4 km)ごとに塚が設置され、沿道に松が植えられていました。この一里塚は、仙台北目町から 30 番目の塚で、下伊澤須江村中上野に位置していました。もとは幅 5.4m 前後の道路の両側に、2 基つくられたものですが、昭和 44 年の国道 4 号バイパス工事で東塚が撤去され、現在は西塚とそこに植えられていた杉の根元が残されています。水沢地域にはかつて不断町(31 番塚)、佐倉河八幡(32 番塚)にも一里塚が築かれていましたが失われており、本塚は近世の歴史遺産として重要です。

径約 2 m、高約 1 m



みずさわ い も の はっしょう ち  
水沢鋳物発祥の地

- ◆指定年月日 平成 6 年 6 月 1 日
- ◆所在地 水沢羽田町字御山下
- ◆所有者 個人

近代・現代に隆盛を極める「水沢鋳物」の遺跡であり、当地方の鋳物業の歴史を考えるうえで重要です。山麓斜面一帯は濃密な鋳滓<sup>こうさい</sup>の包含地とされ、昔、裏山を削った際に鋳滓が発見されています。



指定面積 1,497.52 m<sup>2</sup>

わかやなぎせきぶくろ きゅうせんぼくかいどういちりづか

## 若柳堰袋の旧仙北街道一里塚

- ◆指定年月日 平成 7 年 3 月 10 日
- ◆所在地 胆沢若柳字堰袋
- ◆所有者 奥州市

旧仙北街道は 1000 年以上もの間、岩手県南部と秋田県側を結ぶ幹線道路として使われてきた歴史の道です。しかしその道筋のほとんどは、明治以降の圃場整備や道路整備によって失われ、わずかに道標や一里塚跡によって、たどれる程度となっています。本塚は古老の伝聞と市指定文化財「元禄絵図」記載地とが一致し、旧仙北街道の様子を伝える貴重な文化財です。北側のものは削平され南側だけが残存しています。江戸時代。

指定面積 19 m<sup>2</sup>

# イーハトーブの風景地（種山ヶ原）

- ◆指定年月日 平成 17 年 3 月 2 日
- ◆所在地 江刺米里字大畑
- ◆所有者 奥州市

日本の代表的な詩人であり童話作家でもある宮沢賢治の作品には、岩手県の特徴の風土をあらわす自然の風景地が数多く登場します。これらは、理想の大地として賢治が名づけた「イーハトーブ」を構成する場所であり、今なお美しい風景を伝えています。多くの日本人に愛されている重要な風景地です。



鞍掛山、七つ森、狼森、釜淵の滝、イギリス海岸※、五輪峠、種山ヶ原の 7 箇所を一括指定。

（※平成 18 年 7 月 28 日追加指定）

花巻市を中心として、雫石町・滝沢市・住田町・奥州市の 5 市町にまたがる。

こまがたじんじゃなら

みずさわこうえん

けいさくらぐん

## 駒形神社並びに水沢公園のヒガン系桜群

- ◆指定年月日 昭和 41 年 3 月 8 日
- ◆所在地 水沢中上野町
- ◆所有者 (宗)駒形神社・奥州市

水沢公園及び駒形神社境内は、サクラをはじめとする様々な樹木に覆われています。特に樹齢 250-300 年を超えると推測されるヒガン系サクラ(ベニヒガン、タチヒガン、ベニシダレ、シダレヒガン)は見事であり、サクラの名所となっています。



指定時 120 本 (内訳 : 神社 51 本、公園 69 本)

い さ わ が わ り ゆ う い き      ぐ ん ら く  
胆沢川流域ユキツバキ群落

- ◆指定年月日    昭和 44 年 6 月 6 日
- ◆所在地        胆沢若柳字横岳前山～東前川山
- ◆所有者        国（管理 奥州市）

日本海側ブナ林帯に普通に見られるユキツバキですが、この群落は、ユキツバキ分布の東限であり、原生状態の群落とその自生環境とを最も良く示すものとして重要です。

|                       |                           |
|-----------------------|---------------------------|
| 東前川山国有林 53 林班れ小班      | 1,600 m <sup>2</sup>      |
| 東前川山国有林 54 林班り小班      | 43,000 m <sup>2</sup>     |
| 横岳前山国有林 117 林班ろ 18 小班 | うち 220,300 m <sup>2</sup> |



わかやなぎ

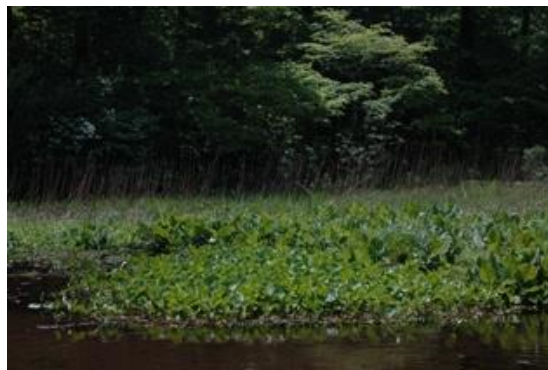
ぐんらく

## 若柳のヒメカユウ群落

- ◆指定年月日 昭和 53 年 4 月 4 日
- ◆所在地 胆沢若柳字横岳前山ほか平七沼周辺
- ◆所有者 国（管理 奥州市）

焼石岳南山腹の通称「平七沼」に自生するヒメカイウは、寒地性のサトイモ科の水草です。日本では、北海道には普通に見られますが、本州では、ここ以外には恐山・白鷹山・仙台近郊・志賀高原など、ごく限られた場所に自生する貴重なものです。

標準和名はヒメカイウですが、指定名称は別名のヒメカユウとなっています。



せんようじ

## 千養寺のカヤ

- ◆指定年月日 昭和 32 年 3 月 30 日
- ◆所在地 水沢羽田町字門下
- ◆所有者 (宗) 千養寺

カヤは山林に生える常緑高木で、庭にも植えられます。  
自生は南東北が北限とされており、貴重な古木です。

根周周囲 4.56m、樹高 15m

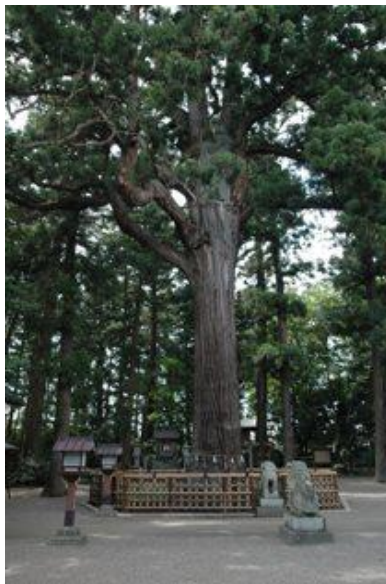


ひ たかじんじゃ

## 日高神社のスギ

- ◆指定年月日 昭和 32 年 3 月 30 日
- ◆所在地 水沢字日高小路
- ◆所有者 (宗) 日高神社

本殿前と池の前の 2 本の一括指定です。「源頼義・義家が安倍貞任・宗任追討の折、昼食の箸にて植えた」という伝承があり、日高神社の歴史を物語る古木です。



①



②

①目通り幹囲 5.5m

②目通り幹囲 5.4m

おおてまち  
大手町のスギ

- ◆指定年月日 昭和 47 年 4 月 1 日
- ◆所在地 水沢大手町一丁目
- ◆所有者 奥州市

江戸時代以前から水沢要害を見守ってきた古木であり、  
象徴木として貴重です。

目通り周囲 5.3m、樹高 21m

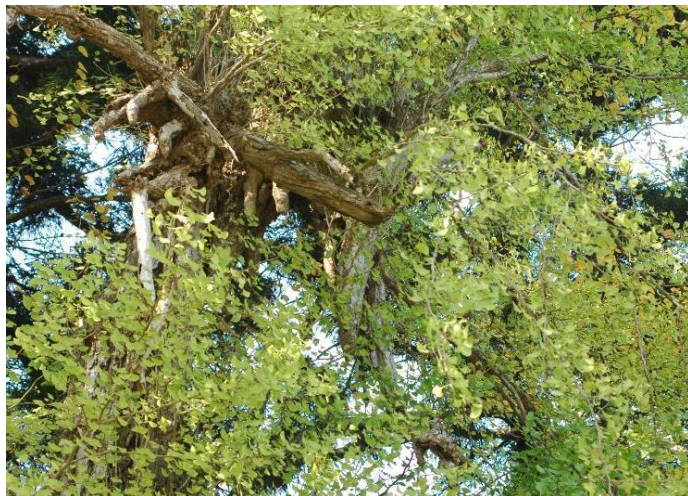


しょうざんじ

## 松山寺のイチョウ

- ◆指定年月日 昭和 48 年 4 月 1 日
- ◆所在地 衣川女石
- ◆所有者 (宗)松山寺

イチョウの古木に見られる乳房状の柱瘤を持っており、貴重な大木です。



乳房状の突起有り

根元周囲 4.28m 胸高周囲 1.58m、樹高 14.3m

しょうざんじ

## 松山寺のカヤ

- ◆指定年月日 昭和 48 年 4 月 1 日
- ◆所在地 衣川女石
- ◆所有者 (宗)松山寺

カヤは、南東北が自生北限となっている常緑樹です。この地方では決して稀な植樹ではありませんが、貴重な大木です。

根元周囲 6.6m 胸高周囲 4.10m



せきぶくろ

## 関袋のカヤ

- ◆指定年月日 昭和 48 年 4 月 1 日
- ◆所在地 衣川関袋
- ◆所有者 個人

カヤは、南東北が自生北限となっている常緑樹です。  
この地方では決して稀な植樹ではありませんが、貴重な  
大木です。

根元周囲 4.75m 胸高周囲 3.90m、樹高 9.3m



な み き ま え

が っ た い ぼ く

# 並木前のエドヒガン・コナラ合体木

◆指定年月日 昭和 48 年 4 月 1 日

◆所在地 衣川並木前

◆所有者 個人

コナラとサクラ（エドヒガン）が絡み合った珍しい合体木です。サクラの洞で芽を出したコナラが成長したものと思われます。非公開。

樹高 21m、根元周囲 6.27m 胸高周囲 6.03m

きただて

# 北館のエドヒガン

- ◆指定年月日 昭和 48 年 4 月 1 日
- ◆所在地 衣川横道下
- ◆所有者 個人

開花時期になると高速道からよく見える場所にあり、花が見事で通称「北館桜」として親しまれています。一本桜として地域を代表する古木です。



樹高 17m、根元周囲 8.52m 胸高周囲 5.92m

やまぐち

## 山口のヒノキアスナロ

- ◆指定年月日 昭和 48 年 4 月 1 日
- ◆所在地 衣川山口
- ◆所有者 個人

アスナロの変種であるヒノキアスナロは、本州北部、北海道南部に自生する針葉樹です。屋敷近くに植樹されたヒノキアスナロとしては大木であり貴重です。

根元で 2 本に分かれている

- ①樹高 15m、根元周囲 2.45m、胸高周囲 2.49m
- ②樹高 10m、根元周囲 3.27m、胸高周囲 3.06m



うしろたき

さわ

## 後滝の沢のスギとフジ

- ◆指定年月日 昭和 48 年 4 月 1 日
- ◆所在地 衣川後滝の沢
- ◆所有者 個人

スギ、フジとも大木であり、特にフジは高さがある、開花時は見事な姿を見せます。



【杉】 樹高 25m、根元周囲 6.74m、胸高周囲 5.09m

【藤】 胸高周囲 1.42m

うねはた

## 畦畑のスギ

- ◆指定年月日 昭和 48 年 4 月 1 日
- ◆所在地 衣川畦畑
- ◆所有者 個人

里のスギとしては巨木であり、価値が高いものです。

樹高 25m、根元周囲 5.99m、胸高周囲 4.71m



かけだ

## 懸田のヒイラギ

- ◆指定年月日 昭和 48 年 4 月 1 日
- ◆所在地 衣川懸田
- ◆所有者 個人

ヒイラギは、関東以西に分布域を持つ暖地性植物です。このように北の地で大きくなることは珍しく貴重です。「厄よけ」として植えられたと伝承されており、民俗資料としても貴重です。

樹高 8m、根元周囲 2.54m、胸高周囲 2.35m



ながた  
長田のカヤ

- ◆指定年月日 昭和 49 年 4 月 1 日
- ◆所在地 水沢黒石町字長田
- ◆所有者 個人

カヤは、南東北が自生北限となっている常緑樹です。この地方では決して稀な植樹ではありませんが、貴重な大木です。



根元周囲 4.13m、胸高周囲 2.20m、樹高 15～20m

は だ や く も じ ん じ ゃ

## 羽田八雲神社のイロハモミジ

- ◆指定年月日 昭和 56 年 3 月 30 日
- ◆所在地 水沢羽田町字粟ノ瀬
- ◆所有者 (宗)八雲神社

イロハモミジは山の谷間に見られる落葉高木です。  
地域で大切にされてきた貴重な古木です。

目通り周囲 3.64m、根元周囲 3.82m、樹高約 13m



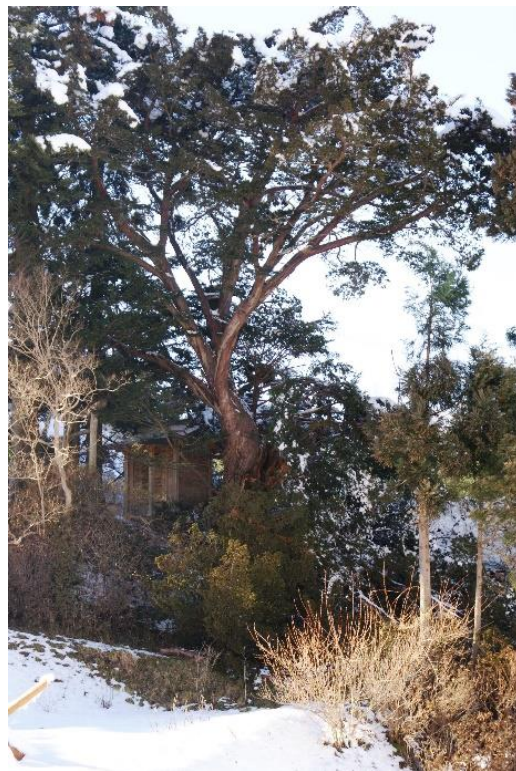
むかいへいとう

## 向平当のイチイ

- ◆指定年月日 昭和 56 年 5 月 19 日
- ◆所在地 江刺米里字向平当
- ◆所有者 個人

北海道から九州に分布する常緑針葉樹です。南東向きの山裾近くの斜面に生立し、根元の直上には小さな祠が建てられています。成長が極めて遅いとされ、貴重な古木です。

樹高 11m、根元周囲 4.2m 胸高周囲 4.2m



まえ おおばたけ

# 前大畑のイチイ

指定年月日 昭和 57 年 7 月 7 日

所在地 胆沢小山字前大畑

所有者 個人

名木として価値が高いものです。個人の庭木として管理されています。非公開。

幹径 0.15m、樹高 3m

こじゅうもんじ

## 小十文字のサイカチ

- ◆指定年月日 昭和 57 年 7 月 7 日
- ◆所在地 胆沢南都田字小十文字
- ◆所有者 個人

サイカチはマメ科の落葉高木樹です。地域で大切にされてきた貴重な古木です。

幹径 0.92m、樹高 20m



まえ おおばたけ

## 前大畑のスギ

- ◆指定年月日 昭和 57 年 7 月 7 日
- ◆所在地 胆沢小山字前大畑
- ◆所有者 個人

県下でも上位 30 位に値する巨木です。

スギの巨木は神社仏閣境内に多く見られますが、個人の屋敷地内の巨木は少なく、江戸時代の屋敷林のありかたを示すものとして貴重です。



幹径 1.4m、樹高 35m

おおやち  
大谷地のヤブツバキ

- ◆指定年月日 昭和 57 年 7 月 7 日
- ◆所在地 胆沢小山字上大谷地
- ◆所有者 個人

ツバキは陰樹の常緑高木です。地域で大切にされてきた貴重な古木です。



幹径 0.35m、樹高 5m

あらや  
荒谷のイロハモミジ

- ◆指定年月日 昭和 54 年 8 月 1 日
- ◆所在地 前沢生母字荒谷
- ◆所有者 個人

イロハモミジの自生地北限は福島県以西であり、県内のイロハモミジは植樹されたものです。大きい方は県下第 1 の大木であり、四季それぞれ色を変え、特に秋が美しい名木です。

①目通り 3.60m

②目通り 3m



①



②

だいこうてい

# 太幸邸のウメ

- ◆指定年月日 昭和 54 年 8 月 1 日
- ◆所在地 前沢七日町
- ◆所有者 個人

県指定有形文化財「太田家住宅（太幸邸）」の庭園にあり、県下屈指の梅の大木です。

樹齢 430 年

目通り 2.35m 高さ 約 11m



どばし

## 土橋のエドヒガン

- ◆指定年月日 平成元年 12 月 26 日
- ◆所在地 胆沢若柳字土橋
- ◆所有者 個人

地元では、「種蒔桜」との名で親しまれているエドヒガンの大木です。開花時期が、農作業の時期の目安とされていたと考えられます。

樹高 14m、根周 3.55m、幹囲 2.87m



とうげ ぐんらく  
峠のトウゲダケ群落

- ◆指定年月日 平成元年 12 月 26 日
- ◆所在地 胆沢小山字峠
- ◆所有者 個人

トウゲダケは、地元では別名のトウゲザサの名で呼ばれ、アズマザサ属に分類されます。1928 年ごろ佐々木喜一氏によって発見され、盛岡高等農林学校の内田繁太郎教授が牧野富太郎博士に示し、1929 年に発表されました。本群落はトウゲダケの基準産地であり、貴重です。



面積 267.78 m<sup>2</sup>

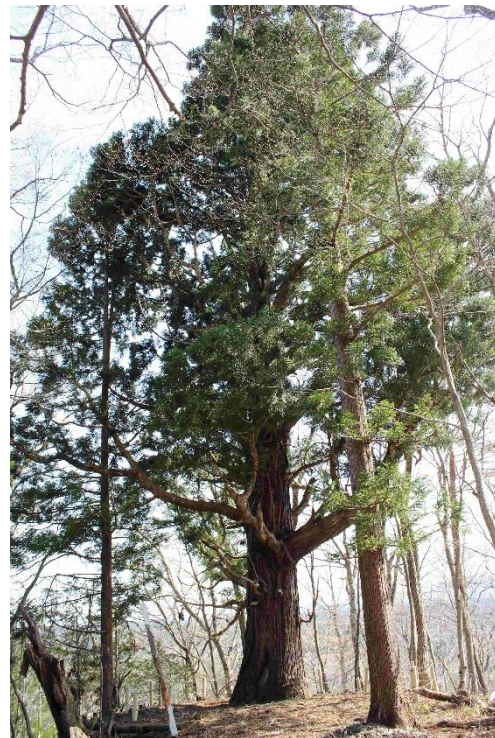
ししあわせ

## 鹿合のスギ

- ◆指定年月日 平成元年 12 月 26 日
- ◆所在地 胆沢若柳字上鹿合
- ◆所有者 個人

鹿合館（山居館）の見張り台があったといわれる、丘陵地の突端に立つ堂々たる老スギです。

樹高 20m、根周 6.8m、幹囲 4.4m、  
枝張り（東 7.9m、西 6.5m、南 10.8m、北 7.5m）



みょうぜんじ

## 明善寺のヒヨクヒバ

- ◆指定年月日 平成元年 12 月 26 日
- ◆所在地 胆沢若柳字香取
- ◆所有者 (宗) 明善寺

ヒヨクヒバはサワラの栽培品種で、枝が開帳し、細枝が長く下垂して樹形が優れているので庭園に広く植栽されています。ヒバの仲間ではこれほどの大木は他にはなく貴重です。

樹高 20m、根周 8.01m、周囲 3.73m



のぎき  
野崎のヤマトアオダモ

- ◆指定年月日 平成 7 年 11 月 6 日
- ◆所在地 衣田野崎
- ◆所有者 個人

ヤマトアオダモは山に生えるモクセイ科の落葉高木です。  
本樹は平地のヤマトアオダモとしては大木です。

樹高 25m、根元周囲 5.23m、胸高周囲 4.21m



いしがさわ

## 石ヶ沢のカヤ

- ◆指定年月日 平成 7 年 11 月 6 日
- ◆所在地 衣川石ヶ沢
- ◆所有者 個人

カヤは、南東北が自生北限となっている常緑樹です。この地方では決して稀な植樹ではありませんが、貴重な大木です。



樹高 11m、根元周囲 4.25m、胸高周囲 4.3m

もちころばし

## 餅転のネズコ

- ◆指定年月日 平成 7 年 11 月 6 日
- ◆所在地 衣川餅転
- ◆所有者 個人

ネズコはヒノキ科の常緑高木です。野生では深山に生える樹種ですが、標高 100m前後の平坦地での生育は非常に珍しく、しかも大木であることから貴重です。

- イ：樹高 25m、根元周囲 3.25m、胸高周囲 2.10m
- ロ：樹高 25m、根元周囲 3.04m、胸高周囲 1.78m
- ハ：樹高 25m、根元周囲 2.78m、胸高周囲 1.62m
- ニ：樹高 25m、根元周囲 1.92m、胸高周囲 1.41m



もちろばし

## 餅転のスギ

- ◆指定年月日 平成 7 年 11 月 6 日
- ◆所在地 衣川餅転
- ◆所有者 個人

近年、屋敷地周辺にスギの大木は少なくなっています。  
このような中、貴重な大木です。

イ：樹高 30m、根元周囲 5.10m、胸高周囲 4.06m  
ロ：樹高 25m、根元周囲 3.53m、胸高周囲 2.84m  
ハ：樹高 30m、根元周囲 6.44m、胸高周囲 6.07m



きゅうでん

## 旧殿のコウヤマキ

- ◆指定年月日 平成 7 年 11 月 6 日
- ◆所在地 衣川西風山
- ◆所有者 (宗)八幡神社

コウヤマキは福島県域が北限ですが、全国各地の社寺に胸高周り 1 m 以上、高さ 20、30m 以上のものが存在します。昭和 2 年に高野山から植樹された木で、高野山参詣記念という植樹背景が明確な記念樹です。

樹高 19m、根元周囲 2.77m 胸高周囲 1.79m



ならはら

## 檜原のサルスベリ

- ◆指定年月日 平成 7 年 11 月 6 日
- ◆所在地 衣川檜原
- ◆所有者 個人

サルスベリは中国南部原産の落葉高木で、元禄時代には日本に入っていました。根張りのよい名木です。



樹高 6.9m、根元周囲 2.32m、胸高周囲（枝 A = 0.95m 枝 B = 1.1m）

ならはら

## 檜原のヤマボウシ

- ◆指定年月日 平成 7 年 11 月 6 日
- ◆所在地 衣川檜原
- ◆所有者 個人

通称「ヤマガ」(ヤマグワ)。山に見られる落葉高木で、自生か植樹かは不明です。ヤマボウシとしてはかなりの大木です。

樹高 15m、根元周囲 2.37m、胸高周囲 1.58m



やまぎし

# 山岸のイチョウ

- ◆指定年月日 平成 11 年 11 月 1 日
- ◆所在地 衣川山岸
- ◆所有者 個人

県下有数のイチョウの大木と考えられる、貴重な木です。

樹高 35m、根元周囲 5.74m、胸高周囲 4.86m



ふるだて

## 古館のエドヒガン

- ◆指定年月日 平成 11 年 11 月 1 日
- ◆所在地 衣川古館
- ◆所有者 個人

エドヒガンの大木で、樹形、根張りともたいへん良好です。毎年 4 月下旬の種干し時期に、無数の花をつけることから「みぼし桜」として親しまれてきました。地域で大切に守られてきた桜です。

樹高 25m、根元周囲 7.42m、胸高周囲 5.50m



ふるど  
古戸のサワラ

- ◆指定年月日 平成 11 年 11 月 1 日
- ◆所在地 衣川古戸
- ◆所有者 個人

山中に野生する常緑高木で、庭園に植えられることもあります。里でこのような巨木となることは珍しく、樹勢も良好で地域の名木として貴重です。

樹高 30m、根元周囲 5.34m、胸高周囲 3.66m



ますざわ

## 増沢のエゾイタヤ

- ◆指定年月日 平成 14 年 8 月 1 日
- ◆所在地 衣川増沢
- ◆所有者 奥州市

北股川上流の下北沢斜面に自生する大木です。樹形全体に風格があり地域で大切にされています。

樹高 20m、根元周囲 5.7m、胸高周囲 5.3m、根周り 5.18m、  
胸高周囲 5.06m



やながわ

## 梁川のエドヒガン

- ◆指定年月日 平成 24 年 3 月 30 日
- ◆所在地 江刺梁川字市道
- ◆所有者 個人

地域での呼び名は「種蒔桜」で、かつてはこの桜が咲く頃に遅れないように種粃を蒔いていました。

また、このエドヒガンは岩谷堂～田瀬、野手崎と人首を結ぶ古道の交差点に位置し、栗生沢集落の象徴的存在といえる名木です。



樹高 14.6m、胸高周囲 5.67m

あきばじんじゃ

## 秋葉神社のスギ

- ◆指定年月日 平成 26 年 11 月 3 日
- ◆所在地 江刺伊手字荒谷
- ◆所有者 (宗) 秋葉神社

秋葉神社のスギは、ご神木と夫婦杉の一括指定です。各々幹周囲が 6.76 m と 10.05m あり、市天然記念物に指定されたスギの中では 1 位と 2 位、岩手県下では 5 位と 30 位に相当する巨樹です。

伊手地区の中心部にあり、「秋葉神社」の御神木として信仰の対象になっています。高台に生えている姿は、麓からも確認することができます、地域の象徴的名木となっています。



神木



夫婦杉

【神木】胸高幹周囲 6.76m

【夫婦杉】胸高幹周囲 10.05 m (5.57 m と 4.48 m の 2 本が根元で癒合)

とがくしじんじゃ

## 戸隠神社のスギ

- ◆指定年月日 平成 26 年 11 月 3 日
- ◆所在地 江刺伊手小中田
- ◆所有者 (宗)戸隠神社

戸隠神社のスギは幹周囲が 6.23 mあり、市天然記念物に指定されたスギの中では3位、岩手県下では 40 位に相当する巨樹です。旧伊手村の村社「戸隠神社」の御神木であり、麓からも戸隠山の山頂に立つ姿を確認することができるなど、地域の象徴的名木です。

戸隠神社は虫歯の神様として信仰されており、縁日にご神木に卵を捧げて拝む慣わしがあり、その卵を御神木に住むへびがいただくとされました。昭和 30 年以前は、東磐井郡興田方面からも草履履きで参拝客が訪れるなど、賑わいました。

胸高幹周囲 6.23m



ふじさと けい か ぼく  
藤里の珪化木

- ◆指定年月日 昭和 38 年 12 月 24 日
- ◆所在地 江刺藤里字石名田
- ◆所有者 個人

植物体に珪酸成分がしみ込み、細胞内に沈着し結晶化して幹の形が残ったものを珪化木といいます。安山岩の礫を交えた砂質凝灰岩からなり、珪化木はこの中に立って埋もれています。現在見えているのは主幹の先端部の 4 m ほどだけで、その様子から埋没している部分を判断すると、全長は 10m を超すと推定されます。樹種はセコイアメスギで、新第三紀には、日本各地で大森林をなしていたといわれます。この珪化木は、県内では根反の大珪化木に次いで大きく、しかも直立した樹幹が保存されており、貴重です。

直径 1.35～1.19m、高さ 3.5m



そでやま きせきあんざんがんちゅうじょうせつり  
袖山の輝石安山岩柱状節理

- ◆指定年月日 昭和 48 年 11 月 3 日
- ◆所在地 江刺岩谷堂字袖山
- ◆所有者 個人

岩石が冷却するとき、柱状に規則的な割れ目が入ったものです。蜂の巣状の六角形桶の形をしているので、地元では通称「桶石」と呼ばれています。また、六面を持つので「六面石」とも呼ばれます。



丸く窪地になっており、その壁面に柱状節理が見られる。高さ 2～3m、巾 15～20m